

4. 河川整備の目標に関する事項

4.1 洪水等による災害の発生防止または軽減に関する目標

4.1.1 目標設定の背景

千代川は、下流部の低平地に人口と資産の集中する鳥取市街地が控えるとともに、流域の地形上、下流には三方向からの流水が集中するため、はん濫被害が生じやすく、過去、幾多の甚大な被害が発生してきました。このような洪水被害を軽減するため、大正15年より下流部の市街地を洪水被害から守るため築堤、捷水路工事等を実施し、現在では用瀬地区の築堤工事を実施しています。

しかし、再度、戦後最大洪水である昭和54年10月洪水と同規模の洪水に見舞われた場合には、河川水の流れる断面積不足により、堤防の安全性が保たれるとされる水位よりも水位が高くなり、堤防の決壊の危険性が高まる箇所や、堤防の高さ不足により水があふれる可能性が高い箇所等があり、当時よりも人口、資産が増えている現状を考えれば、被害は深刻なものになることが予想されます。

このため、目標を定め、計画的な治水対策を実施していくことが必要です。

4.1.2 整備の目標

(1) 安全性の確保

洪水による災害発生防止および軽減に関しては、『人々が笑顔で安全に暮らせる川づくり』を目指すため、戦後最大洪水である昭和54年10月洪水と同規模の洪水が発生しても計画高水位以下で安全に流すことを目標とします。

千代川では基準地点および主要な地点における洪水防御の基本となる目標流量を次のように定めます。

表 4.1.1 基準地点および主要な地点の目標流量

河川名	地点名	位置	目標流量 (m^3/s)	備考
千代川	行徳	鳥取市古海地先(千代川：約 5.1k)	4,300	基準地点
	袋河原	鳥取市河原町袋河原地先(千代川：約 15.0k)	3,500	
	用瀬	鳥取市用瀬町用瀬地先(千代川：約 24.5k)	1,400	
新袋川・袋川	宮ノ下	鳥取市国府町宮ノ下地先(袋川：約 5.7k)	410	
八東川	片山	鳥取市河原町今在家地先(八東川：約 1.0k)	1,800	

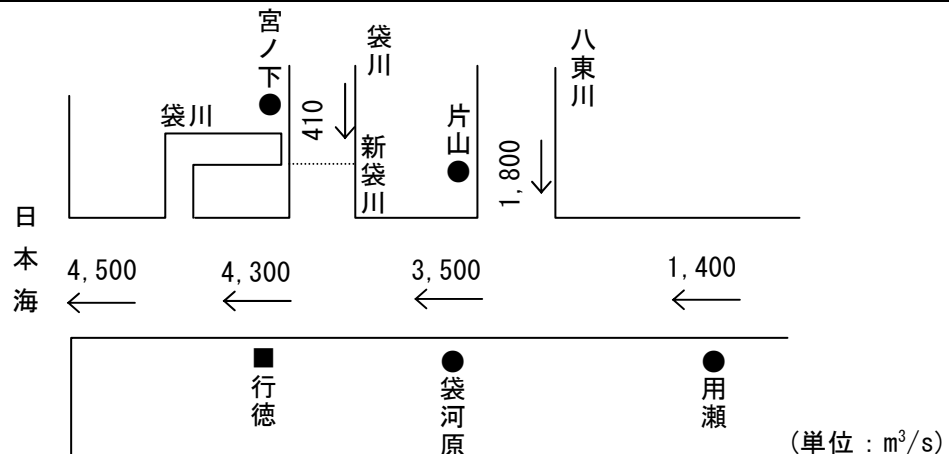


図 4.1.1 基準地点および主要な地点における目標流量

(2) 危機管理体制の強化

不測の事態による災害発生時はもとより、日常からの防災意識の向上や情報連絡体制等、災害時に備え地域が一体となった危機管理体制の充実を図ることにより、災害発生時の被害軽減に努めます。

4.2 河川の適正な利用および流水の正常な機能に関する目標

4.2.1 目標設定の背景

千代川流域のうち、特に新袋川・袋川流域が渇水に対し脆弱な状況にあり、平成6年に宮ノ下地点における観測流量が $0\text{m}^3/\text{s}$ となるなど、取水そのものが困難になるなどの事態になったこともありました。また、鳥取市で利用されている流水のうち、農業用水の一部を除くほぼすべてが千代川水系で賄われています。

このように、地域住民が健全な暮らしを営むとともに、多様な動植物の生息・生育環境を保全し、潤いと安らぎに満ちた千代川を実現するためには、流水の安定と水量の安定供給が不可欠です。

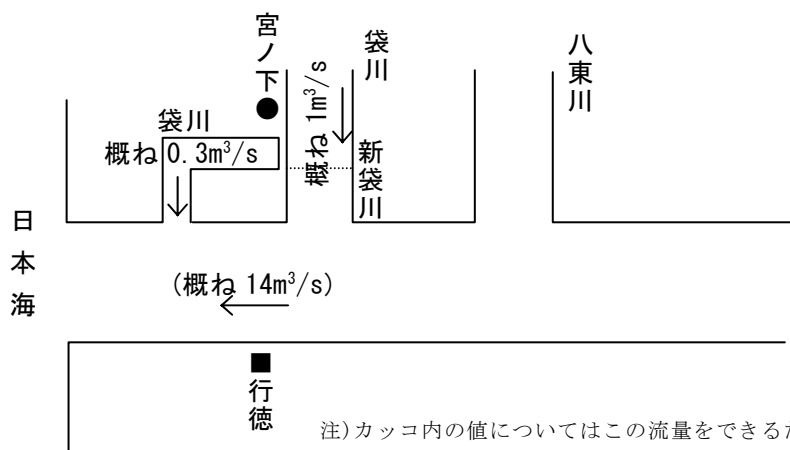
4.2.2 整備の目標

流域に住む人々の安定的な水利用を可能とするとともに、千代川流域の中で特に渇水に対し脆弱である袋川の流水の安定化のため、宮ノ下地点において10年に1回程度起こり得る渇水時においても概ね $1\text{m}^3/\text{s}$ 、新袋川分派地点で袋川へ概ね $0.3\text{m}^3/\text{s}$ を確保するとともに、新袋川合流点より下流の本川における既得水利及び新規都市用水 $50,000\text{m}^3/\text{日}$ の取水が可能ないように必要な水量を確保します。

また、本川においては生物の生息、利水などにできるだけ支障を生じないようにするため、行徳地点における流量が概ね $14\text{m}^3/\text{s}$ を下回らないように努めます。

表 4.2.1 流水の正常な機能を維持するため確保する流量

河川名	地点名	確保する流量	備考
千代川	行徳	(概ね $14\text{m}^3/\text{s}$) ^{注)}	できるだけ下回らないよう努めます
新袋川・袋川	宮ノ下	概ね $1\text{m}^3/\text{s}$	



注) カッコ内の値についてはこの流量をできるだけ下回らないよう努めます。

図 4.2.1 流水の正常な機能を維持するため目標とする流量

4.3 河川環境の整備と保全に関する目標

4.3.1 目標設定の背景

下流域の広い河川敷は都市部の貴重なオープンスペースであり市民の憩いの場やイベント、スポーツの会場として利用されています。また、中流域の用瀬では水辺と深く関わりあった民俗行事として「流しびな」が催されています。

このような千代川と人々との係わりを配慮しつつ、袋川が唱歌「ふるさと」に歌われているなど、流域の歴史・文化・風土に深く根ざしている千代川の現状を踏まえ、基本理念に掲げた『潤いと安らぎに満ちた千代川の実現』、『“ふるさと”を実感できる千代川の次代への継承』を実現するため、豊かな自然と緑が織りなす良好な河川景観、清らかな水の流れの保全を図るとともに、多様な動植物が生息・生育する千代川の豊かな自然環境を次代に引き継ぐように努めます。このため、河川環境の整備と保全が適切に行われるよう、空間管理等の目標を定め、地域住民や関係機関と連携しながら地域づくりにも資する川づくりを推進していく必要があります。

4.3.2 整備の目標

(1) 動植物の生息・生育環境の保全

動植物の生息地・生育地の保全については、重要な水産資源となっているアユなど回遊性魚類の遡上降下環境の確保、産卵床保全に努めます。さらに、瀬、淵が交互に連続する現状の河床形態については、治水面との調和に努め、自然の営力を利用するなどして保全・再生に努めるとともに、水際と緑の連続性等を確保することに努めます。

このように、動植物の生息環境の向上に配慮し、千代川の特徴である豊かで清らかな流れが育んできた河川特有の自然環境の保全に努めます。

(2) 水質の保全

水質については、河川の利用状況、沿川地域等の水利用状況、現状の良好な水環境を考慮し、下水道等の関連事業や関係機関との連携・調整、及び地域住民等との連携を図りながら、現状の良好な水質の保全に努めます。

また、流域の中で特に水質が悪い袋川については、鳥取市街中心部を流れ市街地の景観や環境に重要であるため、快適に水辺の散策等ができるよう、本川と同程度まで水質を改善するよう努めます。

(3) 河川景観の保全

千代川を特徴づけるものとして、用瀬の「流しびな」や名称が付けられ、地域に愛着がもたれている露岩や学術的に価値が高い和奈見の枕状溶岩の保全を図ります。また、歴史的価値のある護摩土手については保全対策に努め、千代川らしい水辺景観の保全、維持に努めることにより、ふるさとの歴史の中に育まれた千代川らしさを織り成す自然環境、歴史的環境を維持します。

(4)人と河川のふれあいの場の創出

現在の地域特性を踏まえつつ、また、千代川水系の国管理区間を次の通り区分し、それぞれ次の目標を定めます。

表 4.3.1 区間別の目標

河川名	区分	目標
千代川	河口～源太橋	都市部の貴重なオープンスペースとして、地域の意向を踏まえつつ多様なレクリエーション活動の場を提供することに努めます。
	源太橋～和奈見橋	親水性の高い河原や背後の景観と調和した河岸を形成することにより、人々が美しい水と景観にふれあえる水辺空間の形成に努めます。
	和奈見橋～国管理上流端	ふるさとを思い起こさせる水辺と深く関わりあった民俗行事を守り、千代川らしさを強調した水辺空間の形成に努めます。
袋川	鳥取バイパス周辺	連続する水と緑の河川空間における水辺散策や旧河川敷地等を活用した多様なレクリエーションが楽しめるよう努めます。
新袋川 袋川	全区間	因幡の文化の発祥の地として袋川を中心に遺跡や、史跡が多いことから、“因幡のふるさとの川”として、袋川にふれあうことができるよう努めます。

また、水辺の魅力を最大限に引き出し、住民参加と地域連携など地元主体となる川づくりを支援し、地域の活性化に寄与でき、豊かな暮らしを支える川づくりを実施することにより、より多くの人が川に向き、より親しめる川づくりを目指します。